

次号予告

特集 / 国際障害者年を迎える

国際障害者年の沿革と日本での事業

…………… 総理府・国際障害者年担当 丸 山 一 郎
 国際障害者年に向けての世界的準備…………… 日本女子大教授 小 島 蓉 子
 国際障害者年と障害者運動

1) 障害児の発達権確保をめざして…………… 第一びわこ学園 高 谷 清

2) 成人障害者の自立にむけて…………… 弁護士 村 田 稔

国際障害者年と理学療法…………… 府中リハビリ学校 森 永 敏 博

国際障害者年と作業療法…………… 都心障センター 寺 山 久美子

と び ら…………… 独協医大 高 橋 勇

講 座 作業療法概論 6. 作業療法士としての適性

…………… 金沢医療短大 田 川 義 勝

プロGRESS 義肢・装具の標準規格化と研究開発体制

…………… 兵庫リハビリセンター 澤 村 誠 志

精神薄弱療育の諸問題(6) 保護者…………… 弘済学園 中 村 健 二

リハビリテーション・インフォメーション<千葉県>…千葉桜ヶ丘育成園 川名 隆治・他

<高知県>…高知リハビリ学院 中屋 久長・他

養成校紹介 国立療養所東名古屋病院付属リハビリ学院……………辻 井 洋一郎

編集後記

もう冬仕度の候ですね。暖房をクリーン・ヒーターにきりかえる人が去年より多いようです。冬越しが楽になった障害者が少いずつでもふえてきてほしいものです。

本号では特集として整形外科的疾患をとりあげてみました。手術療法をいつ、どのように適用するかはリハビリテーション医学でも重要な課題であり、これはまた双方の技術の進歩と共に変わっていくべき性質を備えていると思います。工藤氏には関節リウマチについて、近藤・浅井両氏には腕神経叢麻痺について、それぞれ専門の立場から、手術の適用・効果も含めて、PT・OTに必要な最近の知識のポイントを解説して頂きました。マイクロ・サージェリイの発達により切断指再接着術に進歩がみられ、吉村氏は多数の接着成功例を紹介して下さいました。機能改善がどこまでできるか今後興味を持たれる点です。股関節・頸椎手術後の理学療法については、疾患・術式・障害の程度・年齢などによる差はあるとし

ても、何らかの原則的な基準を整理してもらえればと思い、小沼氏・浅野氏にお願いしました。

現行の制度における補装具の交付基準と現状の必要性との矛盾には、毎日のように泣かされておりますが、プロGRESS欄で澤村氏も指摘されておられるように、本年度行われている車椅子・歩行器・杖の研究については、障害者自身、および、直接関わりを持つPT・OTの現場の声を広く反映させたものにまとめて頂きたいものと切に願っています。

さて国際障害者年も迫ってきました。障害者個人の自覚・行動が高められるような援助が第一に望まれています。一般人の理解を広めることも重要です。そのために我々にできることとして、まず、身近ににいるひとりでも多くの人に障害者を知ってもらう働きかけをしようではありませんか。

(福屋 靖子)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院長

五 味 重 春
埼玉県生活福祉部

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長

津 山 直 一
東京大学教授・整形外科

水 野 祥太郎
川崎リハビリ学院長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
リハビリテーションペ
イン(痛み)クリニッ
クわらび診療所

大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター

鈴 木 明 子
(北海道庁)

寺 山 久美子
都心身障害者センター

富 岡 詔 子
山梨日下部病院

奈 良 勲
金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子
筑波大学

松 村 秋
都養育院リハビリ部

<編集同人>

大 橋 博

大 丸 幸 翼

金 子 矩 子

鎌 倉 伊 昌

駒 沢 治 夫

佐 藤 章 肇

嶋 田 智 明

高 橋 正 明

武 富 由 雄

谷 岡 淳 長

中 屋 久 長

藤 沢 しげ子

松 本 妙 明

丸 谷 隆 昭

矢 谷 令 子

山 下 隆 昭

和 才 嘉 昭

(担当 細田・西家)